

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年2月13日

【四半期会計期間】 第119期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 神東塗料株式会社

【英訳名】 SHINTO PAINT COMPANY, LIMITED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 玉村隆平

【本店の所在の場所】 兵庫県尼崎市南塚口町六丁目10番73号

【電話番号】 大阪06(6426)3355(代表)

【事務連絡者氏名】 企画・経理室部長 村野義博

【最寄りの連絡場所】 兵庫県尼崎市南塚口町六丁目10番73号

【電話番号】 大阪06(6426)3355(代表)

【事務連絡者氏名】 企画・経理室部長 村野義博

【縦覧に供する場所】 神東塗料株式会社本社(東京)
(東京都江東区新木場四丁目3番17号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第118期 第3四半期 連結累計期間	第119期 第3四半期 連結累計期間	第118期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	16,358	17,642	22,011
経常利益 (百万円)	630	1,208	973
四半期(当期)純利益 (百万円)	261	722	466
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	904	820	1,043
純資産額 (百万円)	13,374	14,194	13,513
総資産額 (百万円)	33,777	34,550	33,984
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	8.45	23.31	15.04
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.6	39.9	38.8

回次	第118期 第3四半期 連結会計期間	第119期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.31	9.27

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景とした回復の兆しがみられましたが、海外では欧州債務問題を背景とした、中国をはじめとするアジア市場の成長鈍化の傾向などにより、国内景気は依然として先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループにおきましては、こうした経済状況の中で新製品の開発による積極的な販売活動及びアジア市場での海外事業の展開とともに、コスト競争力の一層の向上を目指して取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は17,642百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。損益面では、営業利益は1,041百万円（前年同四半期比83.7%増）、経常利益は1,208百万円（前年同四半期比91.7%増）、四半期純利益は722百万円（前年同四半期比176.0%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(塗料事業)

アルミ電着塗料はアルミサッシ建材を主としたユーザー向けの出荷が好調を維持し、また、主力ユーザーの新規ラインの獲得や各ユーザーでの生産拠点見直し、及び集約などにより当社シェアが拡大したものの、一部ユーザーでの生産減少により売上は前年並みとなりました。

工業用電着塗料は、主力ユーザーでの素材変更による塗装面積の大幅縮小の影響や、ユーザーの生産調整による出荷量の減少があったものの、電気機械や鋼製家具向けなどが堅調に推移し、売上は前年並みとなりました。

粉体塗料は既存ユーザーの生産量増加と新規ユーザーの獲得による出荷量の増加により、売上は大幅に増加いたしました。

工業用塗料は、11月以降は工作機械及び建設機械等の主力ユーザーの減産の影響を受け、出荷量が減少したものの、それまでの、主力の建設機械向けや形鋼・ゴルフボール・遊戯機械ユーザー向けの出荷が順調だったこと、及び新規ユーザーの獲得による出荷量の増加もあり、売上は増加いたしました。

建築塗料は、東日本地区では復興需要の遅れによる影響があり出荷量が減少したものの、西日本地区では、九州地区の主力ユーザーの新製品効果が寄与し、売上は増加いたしました。

防食塗料は、新設橋梁や新設プラント向けに出荷量が増加し、売上は増加いたしました。

道路施設用塗料は主力のカラー舗装材、すべり止め材、段差修正材は、地域別にはバラつきはあるものの、全体的には順調に推移し、あわせて区画線用ペイントライナー及び溶融材も好調に推移した結

果、売上は増加いたしました。

軌道材料製品については、主力ユーザー向けが好調に推移し、とくに北海道地域での市場拡大や、昨年、不調であったスラブ補修材の出荷が堅調に推移したことなどにより、売上は大幅に増加いたしました。

自動車用塗料は、10月以降はエコカー補助金の終了や対中国との関係悪化による主力ユーザーの生産量の減少、及び欧州不安等の影響を受け、出荷量の減少傾向が顕著になりましたが、第2四半期までの堅調な伸びに支えられ、売上は大幅に増加いたしました。

この結果、売上高は16,294百万円（前年同四半期比8.0%増）、経常利益は1,200百万円（前年同四半期比89.0%増）となりました。

（化成品事業）

受託生産している化成品の売上高は1,348百万円（前年同四半期比5.5%増）、経常利益は7百万円（前年同四半期は4百万円の経常損失）となりました。

（2）財政状態の分析

（総資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ受取手形及び売掛金が177百万円、たな卸資産が61百万円、有形固定資産が169百万円、投資その他の資産が230百万円増加したこと等により34,550百万円（前連結会計年度末比565百万円増）となりました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ支払手形及び買掛金が277百万円、設備関係支払手形が202百万円増加し、未払法人税等が199百万円、長期借入金が237百万円、賞与引当金が102百万円減少したこと等により20,355百万円（前連結会計年度末比115百万円減）となりました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ利益剰余金が598百万円増加したこと等により14,194百万円（前連結会計年度末比681百万円増）となりました。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は116百万円でありま
す。また研究開発による新製品・新品種は下記の通りであります。

(塗料事業)

- ・ SPワイドポリリン : 2液ターベン可溶形ポリウレタン樹脂系鉄部用高耐
候性さび止め兼用省工程塗料
- ・ ハイラバーウォール : 高弾性防水形仕上工法
- ・ ロードカラー#200トップコート遮熱 : すべり止め用遮熱トップコート
- ・ ロードカラー#200補修くん : すべり止めのトップコートやカラー舗装材の補修用
- ・ ネオゴーセー#2300PS : 重腐食環境用防食塗装下塗
- ・ ユカトップ油面プライマー : エポキシ樹脂系油汚れ対応形床面用プライマー
- ・ フロンティア : 2液溶剤形ふっ素樹脂塗料
- ・ フロンティア中塗(建築用) : フロンティア建築塗装用中塗
- ・ フロンティア中塗(防食用) : フロンティア防食塗装用中塗
- ・ マイルドフロンティア : 2液弱溶剤形ふっ素樹脂塗料
- ・ マイルドフロンティア中塗 : マイルドフロンティア用中塗
- ・ アクアフロンティア : 2液水系ふっ素樹脂塗料
- ・ アクアフロンティア中塗 : アクアフロンティア用中塗

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	112,000,000
計	112,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	31,000,000	31,000,000	大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	31,000,000	31,000,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月31日		31,000		2,255		585

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成24年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,933,000	30,933	-
単元未満株式	普通株式 53,000	-	-
発行済株式総数	31,000,000	-	-
総株主の議決権	-	30,933	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄には証券保管振替機構名義の普通株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る普通株式の議決権が6個含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 神東塗料株式会社	兵庫県尼崎市南塚口町 六丁目10番73号	14,000	-	14,000	0.05
計	-	14,000	-	14,000	0.05

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名		旧役名及び職名		氏名	異動年月日
取締役	営業本部副本部長 営業企画管理室(営業戦略)部長 営業企画管理室・海外事業推進 室担当	取締役	営業本部副本部長 営業企画管理室(営業戦略)部長 営業企画管理室担当	森本光明	平成24年10月1日
取締役	技術本部長 生産本部長 尼崎工場長 品質保証環境安全部担当	取締役	技術本部長 生産本部長 尼崎工場長 品質環境部担当	光原俊夫	平成24年12月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,308	1,274
受取手形及び売掛金	3 8,125	3 8,302
商品及び製品	1,910	1,972
原材料及び貯蔵品	623	622
その他	292	284
貸倒引当金	35	39
流動資産合計	12,223	12,416
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,522	2,462
機械装置及び運搬具（純額）	589	792
土地	16,456	16,456
その他（純額）	199	224
有形固定資産合計	19,768	19,937
無形固定資産	424	397
投資その他の資産		
投資有価証券	928	1,113
その他	668	714
貸倒引当金	29	28
投資その他の資産合計	1,568	1,798
固定資産合計	21,761	22,133
資産合計	33,984	34,550
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 7,131	3 7,409
短期借入金	3,319	3,289
未払法人税等	366	167
賞与引当金	200	97
役員賞与引当金	-	9
その他	3 845	3 996
流動負債合計	11,863	11,969
固定負債		
長期借入金	2,222	1,985
再評価に係る繰延税金負債	4,557	4,557
退職給付引当金	1,170	1,180
役員退職慰労引当金	11	7
負ののれん	3	0
その他	642	655
固定負債合計	8,608	8,386
負債合計	20,471	20,355

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,255	2,255
資本剰余金	585	585
利益剰余金	3,152	3,750
自己株式	2	2
株主資本合計	5,989	6,588
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	13
土地再評価差額金	7,282	7,282
為替換算調整勘定	104	90
その他の包括利益累計額合計	7,179	7,205
少数株主持分	343	401
純資産合計	13,513	14,194
負債純資産合計	33,984	34,550

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	16,358	17,642
売上原価	12,882	13,753
売上総利益	3,476	3,889
販売費及び一般管理費		
発送費	410	426
広告宣伝費及び販売促進費	75	81
従業員給料及び手当	838	824
賞与引当金繰入額	45	44
退職給付費用	188	96
減価償却費	124	114
試験研究費	121	116
その他	1,103	1,143
販売費及び一般管理費合計	2,908	2,847
営業利益	567	1,041
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	10	15
受取賃貸料	24	23
持分法による投資利益	55	156
その他	21	12
営業外収益合計	111	209
営業外費用		
支払利息	41	23
投資有価証券評価損	-	9
その他	6	9
営業外費用合計	48	42
経常利益	630	1,208
特別損失		
固定資産除却損	6	4
投資有価証券評価損	19	-
特別損失合計	25	4
税金等調整前四半期純利益	604	1,204
法人税等	288	408
少数株主損益調整前四半期純利益	316	795
少数株主利益	54	72
四半期純利益	261	722
少数株主利益	54	72
少数株主損益調整前四半期純利益	316	795
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	11
土地再評価差額金	639	-
持分法適用会社に対する持分相当額	35	14
その他の包括利益合計	588	25
四半期包括利益	904	820
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	850	745
少数株主に係る四半期包括利益	54	75

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年12月31日)
1 税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
PT. Shinto Paint Indonesia	- (-)	8百万円 (100千USドル)

2 手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形割引高	15百万円	6百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	454百万円	397百万円
支払手形	403百万円	363百万円
設備関係支払手形	54百万円	68百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年12月31日)
減価償却費	470百万円	368百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月13日 取締役会決議	普通株式	123	4.00	平成23年3月31日	平成23年6月9日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月11日 取締役会決議	普通株式	123	4.00	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	塗料事業	化成品事業	計	
売上高	15,080	1,278	16,358	16,358
セグメント利益又は損失()	635	4	630	630

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	630
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	630

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	塗料事業	化成品事業	計	
売上高	16,294	1,348	17,642	17,642
セグメント利益	1,200	7	1,208	1,208

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,208
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	1,208

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	8.45円	23.31円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	261	722
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	261	722
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,987	30,985

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月13日

神東塗料株式会社
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 尾 正 孝 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前 田 徹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神東塗料株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、神東塗料株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。